目　次

はじめに

序　章　ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションの意義……1

第 **1** 節　研究の問題意識と目的……2

（1）研究の背景と目的……2

（2）本研究の社会的意義……5

第 **2** 節　本書の構成……6

（1）研究の課題……6

（2）研究方法……6

（3）混合研究法の採用理由……7

（4）本書の構成……7

第 **3** 節　精神保健福祉士の実践に着目する意義……9

第 1 章　ソーシャルワークにおけるソーシャルアクション理論の変遷……11

第 **1** 節　北米におけるソーシャルアクションに関する文献検討……12

（1）ソーシャルアクションの定義・特徴……12

（2）ソーシャルアクションとアドボカシー……16

（3）ソーシャルアクションとコミュニティ・オーガニゼーション……17

（4）ソーシャルアクションのモデルとプロセス……18

第 **2** 節　日本におけるソーシャルアクションに関する文献検討……22

（1）日本のソーシャルワークにおけるソーシャルアクションの動向……22

（2）組織的活動としての位置づけ……22

（3）コミュニティ・オーガニゼーションとしての位置づけ……25
（4）ソーシャルワークの援助技術としての位置づけ……26
（5）ソーシャルワーク養成教育における位置づけ……28
第3節　ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションの実践課題……31
（1）日本におけるソーシャルアクション実践の困難さとその背景……31
（2）ソーシャルアクション研究の到達点と今後の課題……32
（3）概念規定……34

第2章　精神保健福祉士のソーシャルアクションに対する意識と実践に関する実態調査……35

第1節　調査の目的……36
第2節　調査の方法と概要……37
（1）分析課題の設定……37
（2）対象と方法……39
（3）調査票の作成と測定方法……39
（4）倫理的配慮……40
（5）分析方法……41
第3節　分析結果……43
（1）分析対象者の基本属性……43
（2）単純集計による結果……43
（3）クロス集計による結果……51
（4）因子分析による結果……54
第4節　量的調査の考察とまとめ……58
（1）精神保健福祉士のソーシャルアクションに対する意識と実践の実態……59
（2）精神保健福祉士のソーシャルアクション実践を支える要素……60
（3）精神保健福祉士によるソーシャルアクションの実践課題……61

第3章　精神保健福祉士のソーシャルアクションを対象としたM-GTAの質的分析……63

第1節　研究の目的……64

第2節　研究の方法と調査の概要……65

（1）調査方法……65

（2）修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを採用した理由……65

（3）現象特性について……66

（4）分析焦点者の設定……67

（5）データの収集方法と範囲……67

（6）分析テーマの絞り込み……69

（7）本研究におけるインタラクティブ性……70

（8）分析手順と分析ワークシート……71

（9）倫理的配慮……73

（10）質を確保するための方法……74

第4章　精神保健福祉士によるソーシャルアクションのモデル形成……75

第1節　分析対象者の基本属性……76

第2節　生成されたカテゴリーとコアカテゴリー……78

第3節　結果図全体のストーリーライン……79

第4節　コアカテゴリー：【アクションの原動力の醸成】のストーリーライン……81

（1）〈専門職としての矜恃〉……81

（2）〈当事者の切なる声への共鳴〉……82

（3）〈当事者の生き様から学ぶ〉……83

（4）〈理不尽への危機感〉……84

（5）〈先達から学ぶ〉……85

（6）〈同志との切磋琢磨〉……86

第 5 節　カテゴリー：【自律した実践を支える職場環境づくり】のストーリーライン……88
（1）〈経営的な視点をもつ〉……88
（2）〈定期的な実績報告〉……89
（3）〈実践のみえる化〉……90
（4）〈同僚を鼓舞する〉……91
（5）〈ギブアンドテイクの関係保持〉……91
第 6 節　カテゴリー：【当事者との協働関係の構築】のストーリーライン……93
（1）〈師と仰ぐ〉……93
（2）〈ゼロから学ぶ〉……94
（3）〈想いの傾聴〉……95
（4）〈当事者の強みの体感的理解〉……96
（5）〈支援義務からの解放〉……96
（6）〈チームメンバーへの認識転換〉……97
第 7 節　カテゴリー：【関係機関と共同戦線をはる】のストーリーライン……99
（1）〈一石を投じる〉……99
（2）〈地域住民として位置付ける〉……100
（3）〈認識の変化を促す〉……101
（4）〈好機を見極める〉……102
（5）〈Win-Win な関係の構築〉……104
（6）〈意図的な目標の共有〉……105
（7）〈アクションチームの構築〉……106
（8）〈コアチームの結成〉……106
（9）〈旗を振る〉……107
（10）〈情報のつなぎ役〉……108
第 8 節　カテゴリー：【実践への交渉】のストーリーライン……109
（1）〈チームの想いと数字の可視化〉……109

（2）〈チームによるエビデンスづくり〉…… 110
（3）〈資金の獲得〉…… 110
（4）〈資源開発に向けた交渉〉…… 111
第 9 節　カテゴリー：【持続可能なシステムの構築】の
ストーリーライン……113
（1）〈成果と課題の分かち合い〉…… 113
（2）〈一人・一件の意味を示す〉…… 114
（3）〈人づくりの種まき〉…… 115
（4）〈想いとスキルをつなげる〉…… 116
（5）〈新たな課題の発見〉…… 117
第10節　質的調査の考察と先行研究との比較検討……119
（1）先行研究との比較による類似点…… 119
（2）本研究で考えられた新たな知見…… 120
（3）ソーシャルアクション実践までの原動力の醸成プロセス…… 121
（4）ソーシャルアクションの実践を支える職場環境づくり…… 122
（5）当事者との協働関係の構築…… 124

**第 5 章　ソーシャルアクション「活性化モデル」の意義と
将来への提言**……127
第 1 節　総合考察……128
（1）ソーシャルアクション実践につなげるための中核となる
意識…… 128
（2）ソーシャルアクション実践を促進するための相互交流…… 129
（3）ソーシャルアクションを促進するための組織内外の
マネジメント…… 129
第 2 節　ソーシャルアクション理論と実践の
体系化に向けた試み……132
第 3 節　ソーシャルワーク実践への提言……134
（1）ソーシャルアクションの根拠となる地域ニーズの分析…… 134

（2）ソーシャルアクションを展開するためのネットワーク構築……135
第4節　ソーシャルワーク教育および研究への提言……138
（1）ソーシャルアクションの実装性を高めるための
スキルアップ……138
（2）ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションの普及啓発に
向けて……140
第5節　本研究の意義と限界……142
第6節　今後の研究課題と展望……144

引用・参考文献……145
巻末資料……155
おわりに……189
索　引……193